LifeSize® Express 200™ 設置ガイド

April 2009

Copyright Notice

©2005 - 2009 LifeSize Communications Inc, and its licensors.All rights reserved.

LifeSize Communications has made every effort to ensure that the information contained in this document is accurate and reliable, but assumes no responsibility for errors or omissions.Information in this document is subject to change without notice.Companies, names, and data used in examples herein are fictitious unless noted.This document contains copyrighted and proprietary information, which is protected by United States copyright laws and international treaty provisions.No part of the document may be reproduced or transmitted, in any form or by any means, electronic or mechanical, for any purpose, without the express written permission from LifeSize Communications.

Trademark Acknowledgments

LifeSize® is the trademark of LifeSize Communications Inc.All other trademarks are the property of their respective owners.

Patent Notice

For patents covering LifeSize® products, refer to http://www.lifesize.com/support/legal.

Contacting Technical Services

If you have questions, concerns, or need assistance, contact your LifeSize Partner.

Providing Customer Feedback

LifeSize Communications welcomes your comments regarding our products and services.If you have feedback about this or any LifeSize product, please send it to feedback@lifesize.com. Contact information for LifeSize Communications is as follows:

Method	*Address*
Internet	http://www.lifesize.com
E-mail	support@lifesize.com
Phone	(877) LIFESIZE or (877) 543-3749 (512) 347-9300
Fax	(512) 347-9301

LifeSize Express 200 へようこそ

LifeSize は、遠距離各地に分散している相手との共同作業をより明確にかつ効率的に行うための高精度ビデオ通信システムです。従来のビデオ通信とは異なり、生産性の高さ、使いやすさ、信頼性を兼ね備えた優れたデザインを採用しています。

設置の準備

LifeSize Express 200 の設置を準備する際には、部屋の物理的な状態、ディスプレイとの互換性、ネットワーク構成および設定を考慮してください。LifeSize では、設定を開始する前に、ネットワークの設定とシステムの識別情報を収集しておくことをお勧めしています。収集する必要のある内容と記録する場所については、5 初期構成を参照してください。

部屋の構成

ビデオ会議コンポーネントの配置場所は、部屋の大きさ、形、レイアウト、占有率によって決まります。たとえば、小さなオフィスで設置する場合は、LifeSize Focus を部屋の片側または隅に配置できます。これは、マイク アレイを形成するビームが、壁の反射によってエコーがキャンセルされ、その前から 2.7 m でクリアなサウンドを取得できるためです。ただし、複数ユーザーがいる会議室では、LifeSize MicPod または LifeSize Phone は、サウンドの取得パターンが多方向になるため、参加者の中央に配置してください。

警告：　ケーブルにつまずくと、けがやケーブルおよびコーデックのコネクタへの重大な損傷につながるため、コーデックからのケーブルを人が行き来するエリアを通らないように配置してください。人が行き来するエリアにケーブルを通す必要がある場合は、何らかのケーブル管理システムや対策を使用し、つまづかないよう配置してください。

環境の照明は、画像の品質に影響します。LifeSize システムの最適照明度は、300 から 500 ルクスです。部屋が暗すぎる場合は、ランプを置くなど照明を加えてください。シェードされている光源からの間接光や白っぽい壁からの反射光は、良い結果をもたらします。次のような照明は避けてください。

- 対象物や背景、カメラレンズへの直射日光
- 対象物やカメラレンズの直接光
- 色付きの照明
- 横からのきつい光や上からの強い光

お使いの環境に必要な明るさについては、システムの管理者または LifeSize の代理店にお問い合わせください。

サポートされているディスプレイのタイプと解像度

LifeSize Express 200 は、HDMI ケーブルを使用して、次の 720p HD ディスプレイに接続できます。

- プラズマ フラットパネル ディスプレイ
- CRT モニタ（720p ディスプレイ）
- 大型スクリーン リア プロジェクション TV ディスプレイ（720p ディスプレイ）
- フロント プロジェクション ディスプレイ
- リア プロジェクタ A/V ルーム構成

サポートされているディスプレイ解像度は次の通りです。

- ディスプレイ 1:
  - 720p
  - 768p

  注： 接続しているディスプレイでサポートされていない解像度オプションを選択した場合、LifeSize システムは、[管理者設定] : [外観] : [ディスプレイ] の [ディスプレイ 1 の解像度] 設定を自動的に *[自動]* に設定します。
- ディスプレイ 2: 720p

ファイアウォールの背後に配置する

LifeSize では、システムをファイアウォールの背後に配置し、少なくとも次のポートをブロックすることをお勧めします。

- 22 (ssh)
- 23 (telnet)
- 80 (http)
- 443 (https)

これらのポートを開放しておく必要がある場合には、デフォルトの管理者とコマンド ライン インターフェイスのパスワードを変更し、セキュリティを確保してください。デフォルトの管理者パスワードを変更する方法については、*LifeSize『ビデオ通信システム管理者ガイド*』の「管理者パスワードの変更」を参照してください。

コマンド ライン インターフェイス パスワードの変更については、www.lifesize.com の [サポート] ページからダウンロードできる「*LifeSize Automation Command Line Interface*（*自動化コマンド ライン インターフェイス*）」マニュアルを参照してください。

ユーザー インターフェイスで設定を変更し、システムで ssh および Web アクセスを無効にすることもできます。デフォルトで、telnet は無効になっています。詳しくは、「*LifeSize ビデオ通信システム ユーザー ガイド*」の「リモート管理のコントロール」を参照してください。

ネットワークの帯域幅

ネットワークの帯域幅が十分でないと、音質やビデオ品質が不良になることがあります。LifeSize では、高精度のビデオ通話には、少なくとも 1 Mb/s の帯域幅を持つネットワークを使用することをお勧めします。低帯域幅を使用するビデオ通話では、LifeSize システムにより、利用可能な帯域幅に対する最高の解像度が選択されます。

ドメイン名サービス サーバー

電話をかけるのにドメイン アドレスを使用する場合は、ドメイン名サービス（DNS）サーバーを持つか、DNS サーバーを自動的に設定するダイナミック ホスト設定プロトコル（DHCP）を使用する必要があります。

初期構成

設置中に、LifeSize システムにより、初期構成を設定するよう求めるメッセージが表示されます。LifeSize は、設置前に必要な情報をすべて収集しておくことをお勧めしています。次に、収集のガイドラインとデータの記録方法について説明します。ネットワーク設定やシステム識別情報については、ネットワーク管理者に問い合わせる必要が生じることがあります。

注： 初期構成画面は、システムをリセットした場合にも表示されます。詳しくは、「*LifeSize ビデオ通信システム ユーザー ガイド*」の「デフォルト設定の復元」を参照してください。

言語

ユーザー インターフェイスを表示する言語を選択します。デフォルトは [英語] です。

管理者およびユーザー パスワード

ユーザー インターフェイスから利用できる機能や設定の一部には、パスワードを持つ管理者ユーザーだけがアクセスできます。LifeSize では、セキュリティ保護のため、最初の設定時に、デフォルトの管理者パスワード（1 2 3 4）を変更することをお勧めしています。

オプションで、ユーザーのパスワードを設定して、ユーザーが次のことを実行できるユーザー設定へのアクセスをコントロールできます。

- ユーザー インターフェイスの外観を変更する。
- 電話の応答方法を指定する。
- 音声設定を変更する。
- カメラおよび DVI-I 入力設定を変更する。
- システムを再起動。

管理者およびユーザー パスワードは、数字 0 ～ 9 と記号 *（星印）、#（シャープ）を 16 文字以内で組み合わせることができます。

注： ユーザー パスワードを設定すると、ユーザー設定にアクセスする管理者パスワードも使用できます。

管理者パスワード： _____

ユーザーのパスワード： _____

システムの識別子

ユーザーがシステムを識別する情報が、ユーザー インターフェイスに表示されます。

[場所] 設定に場所を設定します。デフォルトは [米国] です。[タイムゾーン] 設定は、ユーザー インターフェイスのメイン ページ下部のステータス バーに表示されるシステム時刻を設定します。デフォルトは [グリニッジ標準時] です。初期構成時に NTP サーバーを指定した場合でも、この設定を指定する必要があります（ 7 ネットワークの設定を参照）。

メイン画面のユーザー インターフェイスには、[システム名]、[ビデオ通話番号]、[音声通話番号] が表示されます。システム名は、ローカルおよび企業ディレクトリにも表示される場合があります。LifeSize では、デフォルトのシステム名をユーザーがシステムを識別しやすい名前に変更することをお勧めします。

システム名（ネットワークでこの設置を識別するため）： _____

ビデオ番号： _____

音声番号： _____

ビデオおよびビデオ ダイヤル方法の設定

LifeSize システムは、ビデオ ダイヤル方法に IP または ISDN プロトコルのいずれかをサポートします。[ビデオ ダイヤル方法] 設定のデフォルトは、*[自動]* です。この設定を使用すると、システムが電話をかけるのに使用する最高の方法を自動で判断します。

LifeSize Express 200 は、VoIP および ISDN による音声通話をサポートします。「*VoIP*」は H.323 または SIP を使用します。

システムに接続された LifeSize Phone の [音声] ボタンを使用して電話をかける場合は、IP アドレスと VoIP または ISDN 電話番号をダイヤルできます。

リモート コントロールまたは電話の [ビデオ] ボタンを使って電話をかける場合は、IP アドレスをダイヤルできます。これにより、企業ネットワーク内のシステムがゲートウェイにアクセスすることなく、システム IP アドレスを使って、ネットワーク内にあるほかの LifeSize システムに電話をかけることができます。

ネットワークの設定

デフォルトで、LifeSize システムでは、DCHP が有効になっています。**DHCP** 設定を *[無効]* にすると、**IP** アドレス（DHCP サーバーによって割り当てられない場合は、ローカルで構成されている IP アドレス）、サブネット マスク（ネットワークおよびホスト識別子に IP アドレスを分割するために使用される）、デフォルト ゲートウェイ（システムが使用するデフォルト ゲートウェイの IP アドレス）を入力する必要があります。

IP アドレス : _____

サブネット マスク : _____

デフォルト ゲートウェイ : _____

システムのホスト名を入力します。DNS サーバーを自動で設定する DHCP サーバーがない場合は、**DNS** サーバーを構成する IP アドレスを入力できます。ホスト名を解決する際に検索するドメイン名も定義できます。DNS は、ネットワーク ノードをアドレスに変換します。この設定を指定し、DNS を使ってデバイスのホスト名を IP アドレスに変換します。

ホスト名 : _____

DNS サーバー : _____

名前検索ドメイン : _____

[ネットワークの速度] で *[自動]*（デフォルト）以外のオプションを選択する場合は、オプションが、ネットワーク スイッチで構成されている速度と通信モードに一致していることを確認してください。

ネットワークの速度 : _____ ネットワーク二重 : _____

ネットワーク タイム プロトコル（NTP）サーバーのホスト名または IP アドレスを入力して、システムの日付と時刻を自動的に設定できます。[**DHCP**] 設定が *[有効]* に設定されていて DHCP サーバーが NTP サーバーのアドレスを LifeSize システムに渡すことができる場合は、LifeSize システムが、NTP サーバー ホスト名に指定した値を無視します。

ネットワーク タイム プロトコル (NTP): _____

音声の設定

[アクティブなマイク] のデフォルトは *[自動]* です。システムは、接続されている音声入力デバイスを検出し、電話、マイク入力、カメラ 1 の順番にアクティブなマイクを選択します。システムは、ライン入力に接続されているデバイスは検出できません。手動で [アクティブなマイク] として選択する必要があります。

注： アクティブなマイクとして [ライン入力] を選択しても、コーデックのライン入力にデバイスが接続されていないと、[システム情報] ページには、[アクティブなマイク] のステータスとして [ライン入力] が表示されます。[アクティブなマイクなし] インジケータはユーザー インターフェイスには表示されません。

[アクティブなマイク] 設定の *[マイク入力（AEC なし）]* および *[ライン入力（AEC なし）]* のオプションは、独自の音響エコー防止機能を持つマイクに接続するためのオプションです。

アクティブなマイクの音声レベルを設定するには、LifeSize リモート コントロールで [アクティブなマイクの音量] を選択し、[**OK**] を押します。音声メーターが表示されます。音声メーターが、送信された音声のデジタル フル スケール以下の、デシベル（dB）で校正されます。最高値は 0 dB です。

注： LifeSize Phone をアクティブなマイクとして使用している場合は、この設定を変更しても変化はありません。LifeSize Phone マイクは、音声を自動的に調整します。内蔵のエコー キャンセラとノイズ除去機能は、*[マイク入力]*、*[ライン入力]*、または *[カメラ 1]* がアクティブなマイクとして設定されている場合に有効になります。内蔵のエコー キャンセラは、音量を最適なレベルに自動で調整します。

音声メーターは、音声入力として [ライン入力] を選択している場合は、このレベルを設定するのにも使用できます。

ビデオおよび音声通話の両方でオーディオにディスプレイのスピーカーを使用する場合は、[ビデオ通話オーディオ出力] と [音声通話オーディオ出力] 設定の両方を *[ライン出力]* に設定していることを確認します。デフォルトで、[ビデオ通話オーディオ出力] は *[ライン出力]*、[音声通話オーディオ出力] は *[電話]* に設定されています。音声に LifeSize Phone を使用する場合は、これらの設定を *[電話]* に設定します。

適切な音声レベルを主出力スピーカーでテストしたり、正しく動作することを確認したりできます。利用可能なスピーカーでテストを巡回するには、[主音声出力テスト] で *[自動]* を選択します。*[オフ]* を選択するまで、テストが続行されます。

LifeSize Express 200 コンポーネント

LifeSize Express 200 パッケージには、次のコンポーネントが含まれています。

- 次のいずれかの音声コンポーネント：
  - LifeSize Focus：高精度固定焦点カメラ、2 つの多方向ビーム形成マイク付き
  - LifeSize MicPod：1 個のマイクとミュート ボタンを備え、LifeSize Phone の代わりに使用するコンポーネント（デュアル LifeSize MicPod オプションについては 14 オプションの周辺機器を参照）
  - LifeSize Phone：統合キーパッドとディスプレイを備えた高精度テーブルトップスピーカーフォン
- 次のいずれかのカメラおよびケーブル：
  - LifeSize Focus：高精度固定焦点カメラ、2 つの多方向ビーム形成マイク付き
    - ? 標準の 2.9 m ケーブル、オプションの 7.5 m または 15 m ケーブル
  - LifeSize Camera：高精度パン / チルト / ズーム（PTZ）カメラ
    - ? 標準の 7.5 m ケーブル、オプションの 15 m ケーブル
- LifeSize Express 200 コーデック：高品質オーディオおよびビデオコーデックユニット
- LifeSize リモート コントロール：単四電池 3 本を含むワイヤレス リモコン
- クイック リファレンス カード：正しいケーブル配線および機器のセットアップを示す図解
- マニュアル CD

LifeSize Express 200 の設置

LifeSize Express 200 システムのコンポーネントを設置するには、製品パッケージからケーブルを含むすべてのコンポーネントを取り出し、会議室の設置場所周辺に置きます。

警告：　通気を妨げたり、熱が発生する原因となるため、コーデックの上部や近くには物を置かないでください。システムが過熱して再起動する場合があります。過熱した状態が続くと、コーデックに損傷を引き起こす原因となります。

正しいセットアップを図で見るには、システムに含まれている「LifeSize クイック リファレンス カード」を参照してください。クイック リファレンス カードに記載されている番号は、次の手順番号に一致しています。

1. リモート コントロールの裏面にある電池収納部を開きます。
   a. 電池を入れる前に、電池収納部全体に 2 つのストラップを配置してください。
   b. 2 本の電池をバネにマイナス（-）側が来るように置いてから、プラス（+）側を押して挿入します。電池の下に布のストラップが配置されていることを確認してください。
   c. 長い布のストラップがその下に配置されるように、長い布のストラップを両方の電池の上に配置し、真ん中の電池のマイナス側をバネに置いてください。それから、電池のプラス側を押して挿入します。
   d. 布のストラップを中央の電池の上に置き、電池収納部のカバーを取り付けます。
2. LifeSize Camera（2a）または LifeSize Focus（2b）を接続するには、カメラ ケーブルをカメラの背面にあるポートに挿入し、もう一方の端をコーデックの背面パネルにあるカメラのマーク が付いているポートに挿入します。
3. ビデオ ディスプレイ ケーブルにあるの うちの一本 をディスプレイの背面にあるポートに挿入し、もう一方の端をコーデック (3a) の背面パネルにあるディスプレイ 1 のマーク が付いているポートに挿入します。ディスプレイの電源コードをコンセントに挿入します。

   注：　ディスプレイ内蔵ではない外部スピーカーを使用する場合は、コーデックの背面にあるライン出力記号 の付いたポートにスピーカーを接続します。

   2 台目のディスプレイを接続するには、ビデオ ディスプレイ ケーブルをディスプレイの背面にあるポートに挿入し、もう一方の端をコーデック (3b) の背面パネルにあるディスプレイ 2 のマーク が付いているポートに挿入します。ディスプレイの電源コードをコンセントに挿入します。デフォルトでは、2 台目のディスプレイは空白になっています。初期設定を終えたら、132 台目のディスプレイの設定を参照してこのプロセスを完了させてください。

4. ネットワーク ケーブルをコーデックの背面パネルにある、LAN のマーク が付いたネットワーク ポートに挿入します。ネットワーク ケーブルの反対側の端を、壁のネットワーク ポートに挿入します。

5. ビデオと音声の両方に LifeSize Focus を使用する場合は、手順 5 に進みます。それ以外の場合は、次のいずれかを実行します。

   a. 音声に LifeSize MicPod を使用している場合は、コーデックの背面にあるマイク記号 が付いているマイク ポートに、LifeSize MicPod からのケーブルの一端を差し込みます。(デュアル LifeSize MicPod オプションについては 14 オプションの周辺機器を参照してください。)

警告： LifeSize MicPod のコードが人の行き来するエリアを通る場合は、つまずかないように何らかのケーブル管理システムを使用してください。コードにつまずくと、けがを招くおそれがあるだけでなく、LifeSize MicPod コード コネクタやコーデックのコネクタに重大な損傷を引き起こす原因にもなります。LifeSize は、LifeSize MicPod 製品ボックスに同梱されている緊張緩和クリップをコーデックに装着し、ケーブルを緊張緩和クリップに通して使用することをお勧めしています。この方法について詳しくは、LifeSize MicPod 製品ボックスに含まれているクイック リファレンス カードを参照してください。LifeSize Express 200 コーデックでのクリップ装着位置は、LifeSize Express で推奨されている装着位置と同じです。

---

   b. 音声に LifeSize Phone を使用している場合は、電話の下側の LAN 記号 が付いているポートに、電話ケーブルを差し込みます。

      注： という記号の付いた外部ポートは、今後 LifeSize Phone で使用するためのもので現在は使用されていません。

      電話ケーブルのもう一方の端を LifeSize Phone のマーク が付いたコーデック背面パネルのポートに挿入します。破損を防ぐため、ケーブルがガイドにしっかりと接続されていることを確認してください。

      注： LifeSize Phone を LifeSize ビデオ システムに接続している場合は、スタンドアロンのスピーカフォンとして設定することはできません。LifeSize ビデオ通信システムのインターフェイスを使ってシステムを設定してください。

6. 電源コードをコーデックの背面パネルの **DC 19V⎓** が付いている電源ポートに挿入し、もう一方の端を壁のコンセントに挿入します。電源コードの一端を電源アダプタに差し込み、もう一方の端を壁のコンセントに差し込みます。

   LifeSize システムが起動され、コーデックの前面にある青い LED が点灯します。起動時または状態が変化した時のシステムのステータスについて詳しくは、18 ステータス アイコンを参照してください。

   コーデックにカメラを始めて接続するとカメラの初期化が行われます。これには、およそ 90 秒かかります。

警告：　初期化中は処理を中止したり、デバイスを切断したりしないでください。システムに損傷を与える場合があります。

---

7. [初期設定] 画面が表示され、システムを設定するよう求めるメッセージが表示されます。構成の選択には、5 初期構成とこれまでに収集した情報を参照してください。リモート コントロールの矢印キーを使って、[初期設定] 画面に表示される設定オプションをナビゲートします。各画面の下部に表示されるアイコンとその説明は、リモート コントロールのキーに対応しており、画面または選択したオブジェクトで利用できる操作を示します。

   [初期設定] 画面が表示されない、またはディスプレイが空白の場合は、16 設置問題のトラブルシューティングを参照してください。

   スクリーン下部には、システムのステータス バーおよびナビゲーション バーがあります。システムのステータス バーに、システムとネットワークのステータスが表示されます。システムの起動中には、[再ダイヤル] リストの上部に現在の状態を示すステータスが表示されます。表示されるステータス アイコンの説明については、18 ステータス アイコンを参照してください。

LifeSize コーデックのロック

LifeSize コーデックをループタイプのセキュリティ ロックでロックし、デバイスの物理的な移動を防ぐことができます。詳しくは、LifeSize 代理店または LifeSize テクニカル サポートまでお問い合わせください。

2 台目のディスプレイの設定

2 台目のディスプレイを設置する場合は、それを設定する必要があります。ユーザー インターフェイスのメイン画面から、LifeSize リモート コントロールの ボタンを押して、[システムメニュー] を開きます。[管理者の環境設定] : [外観] : [レイアウト] を開き、[ディスプレイ 2 のレイアウト] を選択します。このデフォルトは、*[なし]* です。*[プレゼンテーション + DVI-I 入力]* を選択して 2 台目のディスプレイを設定します。設定を行うと、ディスプレイ 2 には DVI-I 入力、またはプレゼンテーションを送信 / 受信した場合はプレゼンテーション（こちら側と相手側）が表示されます。

LifeSize Express 200 で 2 台のディスプレイを使用する場合は、次の条件が適用されます。

- 通話中の画面に表示される、こちら側または相手側のプレゼンテーションが進行中であることを示すプレゼンテーション アイコンは、ディスプレイ 1 に表示されます。相手側からプレゼンテーションが送信された場合は、受信側のプレゼンテーション アイコン がディスプレイ 1 の上部左隅に表示され、こちら側からプレゼンテーションを送信した場合は、プレゼンテーションの送信アイコン がディスプレイ 1 の下部右隅に表示されます。
- ディスプレイ 2 では、プレゼンテーション ビデオまたは DVI-I 入力のみがサポートされます。[ユーザー設定] : [背景] または、[管理者設定] : [外観] : [背景] に表示される背景画像および色の設定は、ディスプレイ 1 でのみ操作できます。また、ユーザー インターフェイスもディスプレイ 1 にのみ表示されます。

オプションの周辺機器

次のオプション周辺機器を接続し、LifeSize システムを拡張できます。

周辺機器	利用状況
DVI-I 入力	プレゼンテーションや PC データの共有のためにノートブック コンピュータを接続する DVI-I ポート。VGA 出力を備えたデバイスや PC を接続する場合に備え、LifeSize 製品には、DVI-A-VGA ケーブルが付属しています。
Networker	LifeSize Networker との操作用。 注 : ポートには、LifeSize Phone のマーク がついており、LifeSize Phone と LifeSize Networker の両方で使用できます。
マイク入力	シングルまたはデュアル LifeSize MicPod 構成で使用するポート。 シングル LifeSize MicPod 構成では、LifeSize MicPod 延長ケーブル（15 m）を LifeSize MicPod に追加できます。 デュアル LifeSize MicPod 構成では、2 台の LifeSize MicPod を組み合わせることができます。大きな部屋では、スプリッタ ケーブルと延長コードを使用して、より広い音声入力範囲を形成します。サポートされている構成については、14 サポートされているデュアル LifeSize MicPod 構成を参照してください。
音声入力（ライン入力）	LifeSize Phone または LifeSize MicPod に加え、外付けライン レベル音声入力を使用するためのポート。
音声出力（ライン出力）	ディスプレイ 1 に内蔵されていない外付けライン レベル出力スピーカー、またはヘッドセット（左右）を使用するためのポート。 警告 : イヤフォンやヘッドフォンからの過剰な音圧レベルは、聴覚に問題を引き起こす原因となります。

サポートされているデュアル **LifeSize MicPod** 構成

スプリッタ ケーブルを使用すると、延長ケーブルと 2 つの LifeSize MicPod を LifeSize コーデックに備わっている 1 つの LifeSize MicPod ポートに接続し、大きな会議室で最大の多方向音声伝播を実現できます。

デュアル LifeSize MicPod 構成は、2 つの LifeSize MicPod と 1 本のスプリッタ ケーブルに制限されます。（複数のスプリッタを使用して、3 つ以上の LifeSize MicPod を接続することはできません。）ただし、延長ケーブルを使用すると、次の 3 つの構成が可能になります。

スプリッタのオス側をコーデックに接続すると、延長コードを使用して、あるいは使用しないで LifeSize MicPod をスプリッタのメス側にそれぞれ接続できます。

延長ケーブルを使用してスプリッタにコーデックを接続すると、延長ケーブルを使用して、あるいは使用しないで LifeSize MicPod をスプリッタのメス側にそれぞれ接続できます。

2 本の延長ケーブルを使用してコーデックをスプリッタに接続すると、両方の LifeSize MicPod を直接スプリッタのメス側に接続する必要があります。

警告： LifeSize MicPod のコード / 延長ケーブルが人の行き来するエリアを通る場合は、つまずかないように何らかのケーブル管理システムを使用してください。コードにつまずくと、けがを招くおそれがあるだけでなく、LifeSize MicPod コード / 延長ケーブル コネクタやコーデックのコネクタに重大な損傷を引き起こす原因にもなります。LifeSize は、LifeSize MicPod 製品ボックスに同梱されている緊張緩和クリップをコーデックに装着し、ケーブルを緊張緩和クリップに通して使用することをお勧めしています。この方法について詳しくは、LifeSize MicPod 製品ボックスに含まれているクイック リファレンス カードを参照してください。LifeSize Express 200 コーデックでのクリップ装着位置は、LifeSize Express で推奨されている装着位置と同じです。

スプリッタまたは延長ケーブルでシステムに接続されている LifeSize MicPod を取り外したい場合は、スプリッタまたは延長ケーブルをマイク入力から取り外します。LifeSize システムは、マイク入力に接続された LifeSize MicPod がないスプリッタまたは延長ケーブルを接続済み LifeSize MicPod として検知します。LifeSize MicPod がアクティブなマイクとして選択されていても、スプリッタまたは延長ケーブルのみがコーデックのマイク入力に接続されている場合は、ステータス バーには [アクティブなマイクなし] インジケータが表示されず、[システムの情報] ページの [アクティブなマイク] フィールドは、*[マイク入力]* をアクティブなマイクとして認識します。

設置の確認

「*LifeSize ビデオ システム管理者ガイド*」には、設置を確認するテスト通話をかける方法が説明されています。また、LifeSize の設定とネットワークを使用する場合に必要なその他の調整方法についても記載されています。

- ネットワーク アドレス変換（NAT）
- ファイアウォール
- H.323 ゲートキーパー
- セッション開始プロトコル（SIP）
- その他のネットワーク セキュリティ プロトコル

設置問題のトラブルシューティング

通常、LifeSize システムを設置する際の問題は、ディスプレイ出力の問題、ケーブルの接続、ネットワーク帯域幅、接続に原因があります。LifeSize システムで発生する問題のトラブルシューティング情報については、「*LifeSize ビデオ通信システムユーザー ガイド*」を参照してください。

接続の不備やゆるんだケーブルは、ハードウェア機器で最も多く見られる問題です。システムの問題を確認する場合は、まず、すべての外部コントロールとケーブル接続をチェックしてください。正しくしっかりと接続されていること、ケーブルを妨害するものがないことを確認します。

IP アドレスに無効な値が表示される

初期設定を完了した後で、メイン画面の上部に表示される IP アドレスが無効な値を表示する場合は、次のいずれかの状態が発生している可能性があります。

状態	解像度
機器が DHCP を使ってアドレスを取得するように設定されているが、DHCP サーバーを利用できない。 注 : DHCP クライアントは、169.254 クラス B のネットワークでのアドレスを自己割り当てし、赤いネットワーク記号 が、メイン画面のステータス バーに表示されます。	DHCP サーバーが存在するネットワークに機器が接続されていることを確認します。
Ethernet ケーブル接続の不具合	Ethernet ケーブルを高品質のケーブルと取り替えます。
静的 IP アドレスを使用するように機器が設定されているが、IP アドレスが入力されていない。	DHCP を無効にしている場合は、必要な IP 情報を調べて入力します。
ネットワーク接続が利用できない。 メイン画面のステータス バーに赤いネットワーク記号 が表示される。	ネットワーク接続を確認してください。

カメラの問題

カメラからのビデオ画像は、ユーザー インターフェイスのメイン画面、[再ダイヤル] リスト上の小さなウィンドウに表示されます。カメラからのビデオ画像が表示されない場合は、次のことを行ってください。

- 10LifeSize Express 200 の設置で説明されているように、カメラが LifeSize コーデックに正しく接続されていることを確認してください。
- カメラの前面にある青い LED が点滅ではなく点灯していることを確認します。これは、電源がオンになっていることを示します。
- ユーザー インターフェイスのメイン画面から、LifeSize リモート コントロールの ボタンを押して、[システムメニュー] を開きます。 ボタンを押し、[システム情報 **]** ページの 2 ページ目を開きます。カメラのステータスが「準備完了」になっていることを確認します。
- システムの主入力が高精度カメラに設定されていることを確認します。

  リモート コントロールで を押します。[主入力] : [高精度 **HD** カメラ] が画面上部に表示されない場合は、 ボタンを押して、[主入力] の選択ダイアログを開きます。リモート コントロールの矢印キーを使用して該当する高精度カメラを選択し、**[OK]** を押します。

暗い画像の表示を向上させる方法

画像の表示が暗い場合は、[ユーザー（または管理者）設定] : [診断] : [高精度 **HD** カメラ] で [高精度 HD カメラの明るさ] 設定を調整できます。

接続しているビデオ入力デバイスが機能しない

LifeSize によってサポートされていない機能を持つビデオ入力デバイスを接続すると、その入力の [システム情報] ページに「範囲外」というステータスが表示されます。デバイスは、コーデックがサポートしていないモードになっている可能性があります。モードを変更すると機能する可能性があります。これでも機能しない場合は、デバイスがサポートされていないことを意味します。

ステータス アイコン

次の表に、システムのステータス バーで表示されるアイコンを示します。

アイコン	状態
	通信サブシステムが初期化中であることを示します。システムの起動後にこのアイコンが再表示される場合は、問題が発生していることを示します。システムを再起動してください。
	システムが初期化中であることを示します。システムの初期化中は、メイン画面の機能は無効になり、再ダイヤルのリストには何も表示されません。このアイコンはシステム再起動後に新しいデバイスがシステムに接続された場合にも表示され、デバイスの準備が完了すると消えます。アイコンが消えない場合は、問題が発生しているため、システムの再起動が必要です。
	接続されている電話が検出され、電話が初期化中であることを示します。アイコンが消えない場合は、問題が発生しているため、システムの再起動が必要です。
	システムにアクティブなマイクがないことを示します。デバイスの接続を確認してから、[アクティブなマイク] 設定で選択したオプションを確認してください。
ネットワーク ステータス	次のいずれかでネットワークのステータスを示します。 接続 (緑のインジケータ) 進行中 (黄色のインジケータ) 切断 (赤のインジケータ)
システムの過熱	この黄色のインジケータは、システムの温度が許容する最大動作温度に近づいていることを示す警告です。この温度を超えると、システムは自動的に再起動されます。 この赤のアイコンは、システムの温度が許可されている最大動作温度を超えたことを警告します。温度が許容温度まで直ちに下がらない限り、10 秒後にシステムが自動的に再起動されます。